

★心に残っている あのこと このこと ◆



「笑う門には、…」

満点・お婆ちゃん



隣市のOさんは、楽しいお喋りナンバー1の90歳お婆ちゃんである。

冷たい北風が吹き抜ける初春の往診。こたつに座り、細い目をさらに細くして満面の笑みで迎えてくれる。「どうもどうも寒い中、感謝 感謝です」と笑顔が温ったかい。具合いかがですか?と問うと、「百点満点。いつも いつも先生と看護婦さんに命助けてもらっています」「申し分なし」と隙間だらけの歯を見せながら、いきなり感謝の連発。「先生や看護婦さんがいなかったら、今まで生きれなかった。三途の川を何回も渡ったよ。ほんと ほんと」(渡る手前だったのでしょう)。娘さんも「その通り その通り」と 合いの手を入れる。

この満点Oさん、今まで三度死にはぐっている。最初が4年前の2月、脳梗塞発作に襲われ、食べられなくなった。寝たきりとなり、往診が始まった。点滴にて体力改善し、坐位にまで回復。

2回目が2年前の初夏、痰がごろごろ、浮腫も出てきた。実は1W位前に、元家族に暴力を振るわれ、着のみ着のままで隣市の孫のMの検査で、骨に亀裂と。その後ホクナリンテープ使用で、脈がギを使用して1W後には元気骨折も緩和。「笑う門には傷癒

そして3回目が、今年の初診断して入院を勧めたが、経取することに。しかし訪問看護師で、これ又、起死回生。「不死身だね」と看護師に言われる。Oさんスマイルが見られれば治癒である。「笑う門には福(回復)来る」だ。



ンションに逃げてきた時だ。外科、喘鳴と熱発、酸素94、脈138。162迄タヒる。気管支治療とジに。食欲も回復し、その後亀裂える」である。

春。発熱・咳・痰で、肺炎疑いと済的理由などもあり、在宅で看さん達の連日の抗生剤注射

薫風の侯、こたつは座卓にかわり、Oさんも薄着と軽くなる。会話はさらに軽やかに。「お家は、何をしていたのですか」、「おカイコさんを…」広い畑に桑の木、蚕をかっていたと言う。「先祖は武家で、鎧・兜がお蔵にあつたらしい」とは娘さん。由緒正しい家ですねと驚く私、に、「本当を言えば、その通りだよ」、「どうも どうも、みなさんのお陰です、元気百倍、食欲百二十倍」と続き、また笑いをとる。

ところでOさん、今年お幾つになります?との問いに、Oさんは「62歳」と私より若い歳を答える。さらに、では娘さんはおいくつ?と問うと、娘さんの顔をみながら、「50いくつ」とお答えになる。計算があうかな?との突っ込みには、にこにこするだけ。ある時、同じ問答のあと、「ところで先生はお幾つ」と聞かれて絶句。でも、いつも いつも感謝・感謝と、拝む気持ちで、笑顔で過ごされれば百寿も夢ではなさそう。「笑う門には、百歳きたる」です。

クリニックふれあい早稲田

院長 大場 敏明

ちよとい話 とってもいい話

5月から、みさと健和病院の副院長である石川真先生が夜間診療に加わっております。

診療は、毎週水曜日午後6時～8時です。

◎ 石川先生から一言 ◎



みさと健和病院外科の石川真と申します。

医師歴 27 年、専門は消化器外科、血管外科を専門としております。約1ヶ月「ふれあい早稲田」で夜間診療をさせていただいております。クリニックは、小児科、内科的診療がほとんどで正直戸惑っておりますが、「全人的医療」をモットーとし持ち前の「好奇心旺盛」の性格を発揮し、院長、副院長、看護スタッフにも御世話になり診療させていただいております。

消化器癌、動脈硬化などに関連するご相談がありましたら、御気軽にご相談ください。今後とも宜しくお願い申し上げます。

こんにちわ 「えがお」です

小規模多機能型居宅介護「えがお」 曾根綾子 狩野千恵子 浅利晃子

<こんにちは>

3月に開所しました「えがお」です。「えがお」は、高齢者の皆さんが地域で暮らす上で、「デイサービス」「宿泊サービス」「訪問介護サービス」を組み合わせ支援する事業所です。

デイサービスふれあい倶楽部から移行された方7名と新規利用者さん1名の登録8名からスタートしました。現在は15名の方が登録され、朝8時から夜7時まで賑わっており、訪問サービスも1日平均7.6回とヘルパーさん出たり入ったり…。夜の宿泊が一番静かな気がします。

気付けば開所して2ヶ月。過ぎていく中で見えてきたこと、特にデイサービスから移行された利用者さんとご家族の声を少しですがご紹介したいと思います。

<早速、反省と学び>

デイサービスでは利用を増やそうと何年も粘り誘い続けましたが、週1回の利用だった96歳の女性。「えがお」ではすんなり週2回。何故？と不思議でしたが「えがお」は階段がないので楽との事。結局デイサービスの階段が大変で増やしたくなかったと知りました。反面、階段の登り方や降り方を忘れてしまった方もいらっしゃるの段階(エレベーターがありません)は良い様で悪い様で…。今までは気付けなかった事ですが、毎日繰り返される習慣により出来る事、出来ない事が変化をもたらします。大いなる反省であり学びです。

<環境の変化も善し悪し>

デイサービスでは「お風呂なんか入らないよ～、家に風呂あるから！」と全く入らなかった87歳と86歳の男性。「えがお」のお風呂はお気に入り☆「気持ちよかった。ありがとう。」と嬉しそうな笑顔。今では入浴剤まで持参するようになりました。

環境が変わることで今まで出来ていたことが出来なくなってしまうのではという不安がありますが、環境が変わったからこそ挑戦出来ることもあり、良い変化が生まれると実感しました。

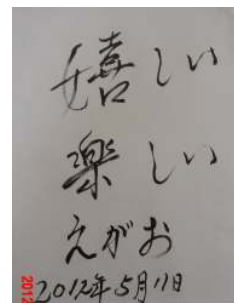
<テラス効果>

「えがお」には日当たりの良いテラスがあります。テラスにはベンチを置きました。ここに座ると日向ぼっこをしながら道行く人が見えます。かなり居心地が良いようで、日々、誰かの居場所になっています。

梅子さんは、この場所が大のお気に入り、新聞を読んだり他の利用者さんと談話したりすることが楽しみと。同時に外に出る機会が増えた方がいます。梅子さんは部屋の隅で新聞を読んでいたことが多かったのですが、最近では率先して洗濯たたみや料理をして下さっています。テラスが導き出した嬉しい変化です。午後のホッとされた時間に「えがお」の印象を聞いてみると得意の書道で書いて下さいました。(写真参考)



- 梅林公園でボランティアさんと
- テラスの風景
(庭には芝を)
- ▲ 「えがお」の印象を得意の書道で
- ★ 初めてのもちつき
- ▼ テラスで洗濯干し



<家族からも様々な発見や気づきが>

私達はこれまで日中の通いの時間のみの関わりでした。しかし訪問サービスや宿泊サービスと組み合わせ、24時間 365日その方の生活を知り寄り添う事で今まで知らなかった表情や生活習慣が少しずつも見えてきました。

ご家族からは「元気になったのか興奮しているのかわからないが、楽しそうに利用している」「自宅よりえがおで過ごす方が良いみたい」「疲れているように見えても昼夜逆転が改善されて良かった」「早朝から夜まで見て貰えて安心です」という嬉しい声を頂いています。

スタートして3ヶ月目。まだまだ手探り状態でスタッフは頭をフル回転して作り上げている段階です。利用者さんやご家族、地域の方々に支えられながら日々勉強させて頂いています。

安心出来る場所・居場所となる「えがお」を目指して頑張っていきますので、これからもご支援・ご協力宜しくお願いいたします。

働きたい… 思いを背負って「ラ・ポルタ」誕生



利用者とスタッフで

就労移行支援事業所ラ・ポルタ 三輪田 達

三郷市初の就労移行支援事業所ラ・ポルタは、開設から3ヶ月を迎え、現在14名の方が一般企業への就職を目指して訓練や講習にはげんでいます。利用者の構成は、精神障害と知的障害の手帳を持っている方が中心ですが、高次脳障害や身体障害の方もラ・ポルタを利用しています。

利用申請一番の小松崎さんは「仕事がしたい！という強い思いでラ・ポルタに入所した。しかし、予想した以上に訓練は大変だった。はじめの頃は時間に追い立てられ苦しかったが、正確さを重視して取り組むようになって楽になった。」と語っています。

[影の声]小松崎さんは、往復12キロの道のりを自転車で通っています。最近では若い利用者をフォローしたり、利用者さんと談笑するなど利用者最年長としての役割をはたしてくれています。

つづいて最も若い利用者の篠田さんです。

「ラ・ポルタに入ってよかった。お友達がいっぱいできた。いろいろなくれんもがんばっていて、ちょっと成長した気がする。休まずに毎日かよっていることがなによりうれしい。」

三人目はパティオで内職を取り仕切っていた柴崎さんです。

「訓練は最初、本当に大変だったが今は少しなれてきた。自分にはどんな仕事合っているのかわからないまま入所したので自信がなかった。しかし、今はもう少し自分にあった仕事をさがすためがんばろうと思っている。」

最後に、山入端さんの感想を紹介します。

「ラ・ポルタの訓練はむつかしいけれどやりがいがある。これからのためになると思う。施設外実習でほめられたことがとても嬉しい。これまでわたしを支えてくれた皆さんともこの喜びを分かち合いたい。ラ・ポルタに注文をつけるとしたら、掃除の時間をもっと短くしてほしいということかな…。利用者みなでお菓子やケーキを食べていると幸せを感じる。」

[影の声]山入端さん！このところ甘いもの食べ過ぎです。浅草さんも！



笑顔でピース



真剣に訓練に集中



利用者のみなさんの共通した感想は、最初は苦しかったということでした。

たしかに、「就職したい。自立したい。」という目標や夢を持っていても、はじめてのワークサンプル訓練(スゴイ集中力でした！)や新たなヒトとの出会い(利用者同士やラ・ポルタ職員との人間関係)、自分の病気や障害とのつき合い、さらに体力不足など、すべてが一気に押し寄せてきて大変だったと思います。

しかし、利用者のみなさんが持ちこたえ、さらに確実に成長したのは作業・訓練やパソコン講習が基本的にモノであり、そこに自分の手や指や頭など人間としての力を全力で発動したからだと理解し、また感動しています。わたしたちにもおぼろげながら、利用者のみなさんの労働(就職)する姿が見えはじめました。

5月初旬、母の日カーネーション作りの施設外実習に6名が参加しました。ラ・ポルタのみなさんは三郷市全域の福祉事業所の職員から「ラ・ポルタの利用者はすごいね」とほめていただきました。

また最近では、福祉事業所や支援学校のみなさんのラ・ポルタに寄せる期待の大きさを肌で感じています。先日も三郷特別支援学校主催の進路説明会終了後、三人のお母さんに取り囲まれました。「ウソでもいいから『利用者自立のため、一生涯付き合うつもりだ』と言ってもらえて嬉しかった」とのことでした。

利用者とご家族、そして障害者を支える多くの仲間たち、ラ・ポルタは間違いなく活動を開始しました。

アカシア会に新しい風を吹き込む 新入職員たち

13年前にクリニックが誕生した時は3名の職員でしたが、現在では外来・在宅医療、高齢者介護、障がい者支援の3つの分野の8事業所に80人の職員にまで成長しました。

3月に小規模多機能施設「えがお」と就労移行支援事業所「ラポルタ」が新しい事業として誕生しました。その事もあって、今年に入って多くの仲間が私達の輪の中に加わりました。総勢17名です。アカシア会に新しい風を運んでくれるに違いありません。



大場理事長を囲んで 新人達



法人職員交流会

新人達を紹介します。(★「初心忘れるべからず」という格言がありますね)

<グループホームアカシアの家>

氏名	出身地	A;「大切にしている事」 B;「成長したいと思っている事」
岩田 明美	江東区 大島	AandB;・気持ちや態度、笑顔でいたい。 「嫌な事はしない」と、いつも頭に入れておく。
工藤 奈緒美	足立区 北千住	A;家族(子供、孫、犬) B;介護人、介護職としてスキルアップしていきたい。
ま しょうり ひとみ 真志取 一三	山形県	B;アカシアの家で取り組んでいる支援は、経験した事がなかった事が多いので、利用者に関わる中で学んでいきたい。

<小規模多機能型居宅介護施設 ふれあいの家>

関口 雅哉	埼玉県	A;人との繋がり B;知識と応用力
-------	-----	----------------------

<小規模多機能型居宅介護施設 えがお>

吉村 ^{しのぶ} 紫敦	北海道	A;家族 B;人の気持ちを理解し尊重できる人間になりたいです。
遠藤 祐子	東京都	A;家族、友人 B;相手の立場に立って物事を考え、優しい気持ちで接する人間に。
鈴木 隆史	東京都	A;家族、友人 B;人間力
重野 ^{しんこ} 新子	福岡県	A;信頼関係、家族 B;人間としての尊厳(プライド)を尊重する。
林 京子	千葉県	A;家族(2人の息子) B;1日も早く信頼関係を築き、お互い毎日笑って過ごせる様になりたい。
高井 俊夫	秋田県	A;高齢者の尊厳

		B;ご利用様が少しでも自立した生活を送れるようなコミュニケーションを身につけたい。
--	--	---

<ディサービス ふれあい倶楽部>

高橋 紀子	兵庫県	A; 家族(特に子供達) B; 介護職員として、全てにおいて、少なくとも前日よりは成長したいと思っています。
小寺 智美	埼玉県 杉戸町	A; いつまでもくよくよ悩んでしまう性格なので悩まない様に何かあつたらすぐ音楽を聞いたりして発散する事です。あとキティちゃん雑貨を揃える事です。 B; 決断力がないのですぐ判断して決められるようになりたいです。

<居宅介護支援事業所 ふれあい>

鈴木 武志	埼玉県	A; 利用者様本位のサービスが提供できるようにしています。 B; 安心して在宅生活を送れるようなサービスが提供できるように知識・経験を積み重ねていきたいです。
-------	-----	--

<就労移行支援事業所 ラ・ポルタ>

佐口 ルミ枝	千葉県	AandB; 「人生をより豊かにする」ことを心がけ、毎日を大切に過ごしたいと考えます。家族を大切に、大好きな犬と遊び、趣味のバイクで仲間と走り、やりがいのある仕事に打ち込む、など。 楽しいことばかりではなく、時には壁にぶち当たることもありますが、すべての経験が自分自身を成長させ、人生(心)もより深みを増すのだと前向きに捉えるようにしています。
稲垣 祐真	新潟市 村上市 (旧荒川町)	A; 余暇を充実させること。仕事で頭がいっぱいになりやすいので、適度に息を抜くことを大切にしています。 B; 以前の仕事と異なり、外部の多くの方と関わる機会が増えるので、コミュニケーション能力を高めたいと思っています。

<クリニックふれあい早稲田>

中山 智子	千葉県 市川市	A; 家族です。趣味は読書、旅行 B; 家庭と社会を行ったり来たりしながら、双方共に成長していきたいと思っています。
川上 貴子	青森県	AandB; 地元で頑張ります。

【編集あれや これや】

今年もパティオの階段の壁にツバメが巣をつくり、子づくりに励んでいます。2階ディサービスでボランティアをしている小林さんが本当に心配顔で「カラスがツバメオの巣を狙っているんですよ。心配で 心配で仕方ありません。元気に巣立ってくれるといいんだがねえ…」と語っていました。立ちは、全国の注目の的ですが、同じように鳥として元気に巣立ってくれるね。



佐渡のトキの巣立るといいです

「ラ・ポルタ」と「えがお」も多くの皆さんの協力で巣立ちました。大きく育つ事を願っています。(長島)